



笑顔あふれる
藻岩北の子

藻岩北だより 《臨時号》

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果及び考察

平成30年10月17日
札幌市立藻岩北小学校

6年生を対象に、4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果及び概要をお知らせいたします。



1 教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

《国語》

本校の概要

主として「知識」に関する問題 (A)

- 「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」「言語についての知識・理解・技能」の平均正答率は、**全領域で全国平均を上回っている。**

主として「活用」に関する問題 (B)

- 「読むこと」の平均正答率は、全国平均を上回っている。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の平均正答率は全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

国語・算数・理科の3教科の全てで、全国平均を上回る結果が出ました。学校での学習だけではなく、家庭での学習が定着している成果だと考えます。「今回の調査における課題」や「改善の方向」は、設問を細かく見た際に、浮き上がってきた課題について考察し、学校全体の課題として捉えていくものです。

今回の調査における課題

- ★「言語についての知識・理解・技能」は正答率がやや低い。漢字を文の中で正しく使うことに課題がある。
(製造、設備、消毒、管理、積極的 など)
- ★問題形式では、「記述式」の問題の正答率がやや低い。目的や意図に応じて、自分の考えを書いたり、自分の意見と比べながら考えをまとめたりすることに課題がある。

改善の方向

- ◎学年別漢字配当表に示されている漢字を適切に用いて文章を書いたり、伝統的な言語活動に触れたりする学習指導の充実。
- ◎書く目的や意図を明確にし、自分の考えをまとめたり、端的に表現したりする指導の充実。

《算数》

本校の概要

主として「知識」に関する問題 (A)

- 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の平均正答率は、**全領域で全国平均を上回っている。**

主として「活用」に関する問題 (B)

- 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の平均正答率は、**全領域で全国平均を上回っている。**

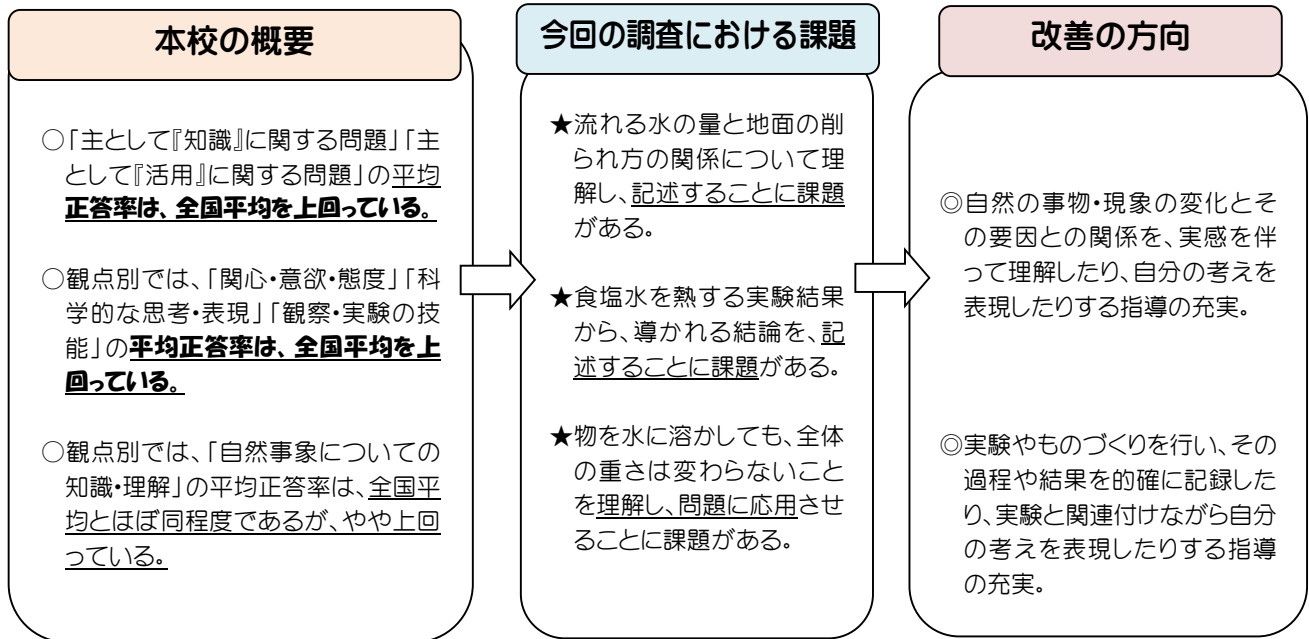
今回の調査における課題

- ★小数の除法の意味について理解することに課題がある。(例:どのような問題のとき、式が $(12 \div 0.8)$ となるか。)
- ★分度器の目盛りを読み、 180° よりも大きい角の大きさを求めることに課題がある。
- ★棒グラフや帯グラフを読み取り、生活の中の数学的な事象として関連付けることに課題がある。

改善の方向

- ◎既習と関連付けながら、小数や分数の意味や仕組みについて理解を深め、習熟を図る指導の充実。
- ◎角度や、図形についての理解を深め、計測や作図の技能を定着させるような指導の充実。
- ◎生活の中における数学的な事象を読み取り、既習と関連付けながら思考したり、自分の考えを表現したりする指導の充実。

《理 科》



2 児童質問紙による学習状況調査の結果から

<全国平均との違いがみられる項目>

- ① 「平日に勉強を1時間以上している」子どもの割合は、全国平均より高い。
- ② 「家で学校の宿題をしている」子どもの割合は、全国平均より高い。
- ③ 「毎日同じ時刻に寝ている」子どもの割合は、全国平均より高い。
- ④ 「自分には良いところがあると思う」子どもの割合は、全国平均より低い。
- ⑤ 「将来の夢や目標をもっている」子どもの割合は、全国よりやや低い。

生活習慣や学習意欲、学習方法、学習環境等の状況を推し測る質問紙調査（質問は全部で62問）からは、学習や毎日の生活などについて今の児童の状況を捉えることができます。全体の傾向は、全国とほぼ同様の傾向がありますが、上記のように項目によっては注目すべき点が見られます。

○本校の児童の、家庭での学習状況は、①と②から見て、かなり定着してきていると言えます。これは、保護者の皆様のご協力のお陰です。しかし、別の質問「家で、自分で計画を立てて勉強をする」子どもの割合は少なく、宿題以外の自主的に学習する取組（家庭学習）が、苦手な子が多いことが分かりました。家庭学習は、取り組むことで習慣化します。低・中学年の頃から、少しずつ取り組ませたいものです。家庭学習のよい例を掲示板で紹介したりし、学習の仕方が分かるようにしたりするなど、学校でも家庭学習への取組を推進していきます。

○本校の児童は、③にあるように、規則正しい生活を心掛けていることが分かります。「朝ごはんを毎日食べる」子どもの割合も全国平均より高くなっています。これも、保護者の皆様のご協力のお陰です。今後も、ご家庭の協力をお願いいたします。

○④⑤からは、子どもの自己肯定感を、さらに育む手立てを充実させる必要性があります。豊かな心を育む道徳教育の推進とともに、学校でも、家庭でも、子ども一人一人のよさを大切にしたい取組を行っていくことが必要です。

ご家庭域でも、これらの結果等について話題にしていただけると幸いです。